

ラジオ派のわたしは、午前中はほとんどNHKラジオ第一放送を聴いている。

今年の4月から、ウイークデイの午前中は、〈ラジオ・ビタミン〉という新番組になり、インタビューや音楽を取り混ぜた、軽快でしゃれた内容になった。そ の中で、日々のくらしの応援歌を、視聴者から募集しているのだが、それをビタミン・ソングと呼んでいる。つまり、自分を励ますのは、ビタミンという栄養素 だと解釈しているのかもしれない。

しかし、ビタミンに熱量(エネルギー)はふくまれない。瀕死のときは、自家発電できない状態だから、ビタミンよりもまず熱量だとわたしは思ったのだが。

そんな屁理屈はさておき、一般視聴者をはげます曲の、なんと多様化していることか！ あらためておどろく。自分をブルーにさせる歌が、別の人には応援歌になることもある。

ちなみに、わたしにとっての応援歌を列記してみると、吉田拓郎の「今日までそして明日から」、島津亜矢の「ヨイトマケの唄」、中島みゆきの「ファイト」、北原ミレイの「石狩挽歌」、谷村新司の「陽はまた昇る」、さだまさしの「風につつライオン」。ここまで書いて、自分ながら息ぎれしそうになった。な ぜ、そんな暗やみに自分を追い込まなくてはならないのか。どん底は、もっと他にあるかもしれないのに。

もう一方、金子ゆかりやクミコのように、いわゆる大手メジャーではないけれど、ふとよりそって、いっしょに泣いてくれる歌の力も見逃せない。NHKのいうビタミン・ソングとは、もしかしてこういう熱量をふくまない応援歌のことではないか。

なるほど、ビタミンとは体の微調整役だから、必須でいて、さりげなく耳にとどけばいいはずだ。はて？ 「熱量にこだわる必要はないね」と投げたら、「母ちゃん、それは考えすぎだよ。熱くならないエネルギーだってあるじゃんか」と息子に返された。